



2025年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2024年7月31日

上場会社名 高松機械工業株式会社 上場取引所 東
コード番号 6155 URL <https://www.takamaz.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 高松 宗一郎
問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 管理本部長 (氏名) 四十万 尚 (TEL) 076-274-1410
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 無
決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年3月期第1四半期の連結業績(2024年4月1日～2024年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第1四半期	3,588	5.9	△193	—	△181	—	△160	—
2024年3月期第1四半期	3,390	1.1	△32	—	△8	—	△29	—

(注) 包括利益 2025年3月期第1四半期 △67百万円(—%) 2024年3月期第1四半期 △6百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期第1四半期	△14.94	—
2024年3月期第1四半期	△2.77	—

(注) 2025年3月期第1四半期及び2024年3月期第1四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益につきましては、1株当たり四半期純損失であり、また、希薄化効果を有する潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期第1四半期	22,465	16,501	73.4
2024年3月期	22,313	16,618	74.4

(参考) 自己資本 2025年3月期第1四半期 16,479百万円 2024年3月期 16,598百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	5.00	—	5.00	10.00
2025年3月期	—	—	—	—	—
2025年3月期(予想)	—	5.00	—	7.00	12.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年3月期の連結業績予想(2024年4月1日～2025年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	6,680	△4.8	△617	—	△654	—	△496	—	△46.22
通期	16,436	15.9	474	—	336	—	169	—	15.74

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有
詳細につきましては、本日(2024年7月31日)公表しました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2025年3月期1Q	11,020,000株	2024年3月期	11,020,000株
2025年3月期1Q	268,680株	2024年3月期	268,680株
2025年3月期1Q	10,751,320株	2024年3月期1Q	10,831,988株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等の注記)	8
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、景気回復に足踏みがみられるものの、インバウンド需要の回復などから緩やかな回復傾向にある一方で、中東地域での紛争やロシア・ウクライナ情勢、大幅な円安、物価上昇の継続など、先行きは依然として不透明な状況で推移しました。

当社グループの主力分野である工作機械業界においては、依然として明確な力強さはないものの、これまで続いていた調整局面から本格的な回復局面に向かいつつあるとみられています。内需では半導体製造装置関連での先行的投資に広がりが見られたほか、省力性や環境対応性能に優れた機械に更新する動きがみられ、外需では中国を中心としたアジアで受注の回復が見られたことから、当第1四半期連結累計期間の業界受注総額は、前年同期比1.3%増の3,792億円となりました。

このような状況の中で、当社グループの当第1四半期連結累計期間の受注高は34億36百万円(前年同期比15.5%減)、受注残高は66億6百万円(同4.5%減)となりました。また、売上高は35億88百万円(同5.9%増)、営業損失は1億93百万円(前年同期は32百万円の営業損失)、経常損失は1億81百万円(前年同期は8百万円の経常損失)、親会社株主に帰属する四半期純損失は1億60百万円(前年同期は29百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失)となりました。

セグメントごとの経営成績を示すと、次のとおりであります。

① 工作機械事業

当第1四半期連結累計期間の経営成績は、受注高が31億60百万円(前年同期比15.2%減)、受注残高が60億98百万円(同2.6%減)、売上高が32億49百万円(同6.1%増)、営業損失が1億88百万円(前年同期は27百万円の営業損失)となりました。

受注高の地域別内訳は、アジア向けが大きく増加した一方、国内向け、北米向け及びヨーロッパ向けが減少した結果、内需が15億64百万円(前年同期比34.4%減)、外需が15億95百万円(同18.8%増)となりました。

売上高の地域別内訳は、国内向けが減少した一方、海外向けが全ての地域で大きく増加した結果、内需が18億83百万円(同14.3%減)、外需が13億66百万円(同58.0%増)、外需比率が42.0%(前年同期は28.2%)となりました。

第1四半期連結累計期間における主な取り組みとして、工作機械の潜在的需要の掘り起こしをはかり、MEX金沢2024やMETALTECH MALAYSIA 2024に出展したほか、国内ではディーラ主催の展示会にて当社の強みである自動化力・カスタマイズ力をPRしてきたことに加え、受注確保に向けて計画的な訪問営業を行い、ユーザーニーズに沿った提案営業を推進してきました。また、当社グループの主力受注先は自動車関連ではありますが、足元では設備投資需要の回復が遅れていること及び中長期的な視点から、自動車関連以外の市場開拓をはかっており、新たな市場に対する積極的な営業活動に成果も上がってきています。

また2024年4月、新しく「利益向上プロジェクト」を立ち上げ、活動をスタートさせました。営業・技術・生産管理・製造の各部門の社員がプロジェクトメンバーとなることで、受注から納品までの一連のプロセスにおいて、生産面だけではなく全社最適の視点での利益向上に取り組んでいます。

製品面では、今後の需要拡大が見込まれるEV関連部品向けの受注拡大をはかるため、EV、HV、エンジン車等の自動車や産業機械にとって必要なシャフトワークの加工をターゲットとした1スピンドル1タレット精密旋盤「XTL-8」「XTL-8MY」の2機種を新規開発しました。従来機よりも加工能力の向上をはかったほか、省エネレベル選択機能やアイドルストップ機能により、環境負荷低減によるカーボンニュートラルへの貢献やランニングコストの削減を実現します。

設備投資面では、今後の自動車関連の需要回復に備え、中長期視点からの生産能力向上を進めており、新たに荒加工用の横型マシニングセンタを導入しました。先に導入した同型マシニングセンタとの連動した稼働により、一層効率的な生産の実現に努めます。

更に新規事業への挑戦として、工作機械事業で培った当社の自動化技術と、株式会社PFUの持つ複合照明技術・特徴融合認識技術を融合させた資源ごみAI自動選別機「AI・B-sort」を開発し、販売を開始しました。ビンの色選別を行う「AI・B-sort」は、リサイクル業界の人手不足問題を解決できる製品であります。すでに販売実績があり、納入施設では作業者が半減できる見込みです。また、受注拡大に向けた取り組みとして、MEX金沢2024及びNEW環境展2024に出展し、ターゲットである地方自治体や一般廃棄物処理業者などに積極的なPRを行いました。なお、製品のデモ稼働は、当社公式YouTubeチャンネルにてご覧になれます。

(<https://www.youtube.com/watch?v=t0999CTPPXU>)

② IT関連製造装置事業

当第1四半期連結累計期間の経営成績は、受注高が2億76百万円(前年同期比17.8%減)、受注残高が5億8百万円(同23.2%減)、売上高が3億円(同19.2%増)、営業利益が0百万円(前年同期は0百万円の営業損失)となりました。

半導体需要の調整が継続し、想定よりも低調に推移したことで受注高が減少しましたが、新規案件受注の取り組みに成果が上がったことで売上高が増加し、利益面でも営業利益の計上となりました。

③ 自動車部品加工事業

当第1四半期連結累計期間の経営成績は、売上高は37百万円(前年同期比50.2%減)、営業損失が5百万円(前年同期は4百万円の営業損失)となりました。

海外自動車メーカー向けの販売不振による生産数減少や採算性の低い取引を停止したことが影響したほか、タイで自動車部品加工事業を行っていた当社連結子会社TP MACHINE PARTS CO., LTD. を解散したことによって売上高が減少しました。またその結果、利益面では営業損失が継続しました。

(2)財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は224億65百万円で前連結会計年度末に比べて1億51百万円の増加となりました。

区分別にみますと、流動資産は140億98百万円となり、前連結会計年度末に比べて1億60百万円増加しました。その主な要因としては、受取手形及び売掛金が6億40百万円、棚卸資産が1億48百万円減少したものの、電子記録債権が9億38百万円増加したことによるものです。

固定資産は83億67百万円となり、前連結会計年度末に比べて9百万円減少しました。その主な要因としては、投資その他の資産のその他(投資有価証券等)が18百万円減少したことによるものです。

次に当第1四半期連結会計期間末の負債は59億63百万円で前連結会計年度末に比べて2億68百万円の増加となりました。

区分別にみますと、流動負債は46億6百万円となり、前連結会計年度末に比べて4億99百万円減少しました。その主な要因としては、短期借入金が4億円、流動負債のその他(未払費用等)が2億85百万円増加したものの、電子記録債務が11億71百万円、賞与引当金が1億18百万円減少したことによるものです。

固定負債は13億57百万円となり、前連結会計年度末に比べて7億68百万円増加しました。その主な要因としては、長期借入金が7億70百万円増加したことによるものです。

当第1四半期連結会計期間末の純資産は165億1百万円で前連結会計年度末に比べて1億16百万円の減少となりました。その主な要因としては、為替換算調整勘定が1億30百万円増加したものの、利益剰余金が2億14百万円減少したことによるものです。なお、自己資本比率は73.4%となりました。

(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

最近の業績動向を踏まえ、2024年4月30日に公表しました2025年3月期第2四半期(累計)連結業績予想を修正しました。詳細につきましては、本日(2024年7月31日)公表しました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,335	3,317
受取手形及び売掛金	3,072	2,432
電子記録債権	3,255	4,193
商品及び製品	1,435	1,350
仕掛品	1,637	1,559
原材料及び貯蔵品	1,014	1,028
その他	190	219
貸倒引当金	△4	△3
流動資産合計	13,937	14,098
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	3,817	3,767
土地	2,411	2,411
その他（純額）	696	755
有形固定資産合計	6,925	6,934
無形固定資産	139	140
投資その他の資産		
その他	1,345	1,327
貸倒引当金	△34	△34
投資その他の資産合計	1,311	1,293
固定資産合計	8,376	8,367
資産合計	22,313	22,465

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	960	1,051
電子記録債務	2,590	1,418
短期借入金	690	1,090
未払法人税等	17	22
賞与引当金	191	72
製品保証引当金	43	53
その他	611	896
流動負債合計	5,105	4,606
固定負債		
長期借入金	185	955
退職給付に係る負債	130	133
その他	273	267
固定負債合計	589	1,357
負債合計	5,695	5,963
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,835	1,835
資本剰余金	1,777	1,780
利益剰余金	11,971	11,757
自己株式	△192	△192
株主資本合計	15,392	15,180
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	214	191
為替換算調整勘定	729	859
退職給付に係る調整累計額	261	247
その他の包括利益累計額合計	1,205	1,298
新株予約権	14	16
非支配株主持分	5	5
純資産合計	16,618	16,501
負債純資産合計	22,313	22,465

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
売上高	3,390	3,588
売上原価	2,539	2,902
売上総利益	850	685
販売費及び一般管理費	883	878
営業損失(△)	△32	△193
営業外収益		
受取利息	1	1
受取配当金	6	6
為替差益	36	14
その他	11	12
営業外収益合計	55	34
営業外費用		
支払利息	0	1
持分法による投資損失	30	20
その他	0	0
営業外費用合計	31	22
経常損失(△)	△8	△181
特別利益		
出資金清算益	6	—
固定資産売却益	—	1
特別利益合計	6	1
特別損失		
固定資産除却損	0	0
特別損失合計	0	0
税金等調整前四半期純損失(△)	△1	△180
法人税、住民税及び事業税	34	7
法人税等調整額	△6	△27
法人税等合計	27	△19
四半期純損失(△)	△29	△160
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	0	△0
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△29	△160

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
四半期純損失(△)	△29	△160
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2	△22
為替換算調整勘定	6	106
退職給付に係る調整額	△3	△14
持分法適用会社に対する持分相当額	16	24
その他の包括利益合計	23	92
四半期包括利益	△6	△67
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△6	△67
非支配株主に係る四半期包括利益	0	0

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

前第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	工作機械事業	IT関連製造 装置事業	自動車部品 加工事業	計		
売上高						
日本	2,197	252	65	2,514	—	2,514
北米	321	—	—	321	—	321
ヨーロッパ	129	—	—	129	—	129
アジア	412	—	10	423	—	423
その他	—	—	—	—	—	—
顧客との契約から 生じる収益	3,061	252	75	3,390	—	3,390
外部顧客への売上高	3,061	252	75	3,390	—	3,390
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1	—	—	1	△1	—
計	3,063	252	75	3,391	△1	3,390
セグメント損失(△)	△27	△0	△4	△32	—	△32

(注) 1 売上高の調整額△1百万円は、セグメント間取引消去額であります。

2 セグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	工作機械事業	IT関連製造 装置事業	自動車部品 加工事業	計		
売上高						
日本	1,883	300	37	2,222	—	2,222
北米	461	—	—	461	—	461
ヨーロッパ	290	—	—	290	—	290
アジア	614	—	—	614	—	614
その他	—	—	—	—	—	—
顧客との契約から 生じる収益	3,249	300	37	3,588	—	3,588
外部顧客への売上高	3,249	300	37	3,588	—	3,588
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2	—	—	2	△2	—
計	3,252	300	37	3,591	△2	3,588
セグメント利益又は損失(△)	△188	0	△5	△193	—	△193

(注) 1 売上高の調整額△2百万円は、セグメント間取引消去額であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。

なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
減価償却費	130百万円	113百万円